

議事録：石狩小学校校舎利活用検討委員会第5回会議

■日時：平成31年2月13日（水）午後1時～午後2時

■会場：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者

石狩小学校校舎利活用検討委員会委員

- ・村山耀一
- ・池上重康
- ・越田賢一郎
- ・鈴木明彦
- ・吉田光岐
- ・石山優子

事務局

- ・佐々木隆哉（生涯学習部長）
- ・東 信也（社会教育担当次長）
- ・工藤義衛（地域資料担当参事・学芸員）
- ・志賀健司（文化財課主査・学芸員）
- ・石井 悟（文化財課主査）
- ・坂本恵衣（文化財課主事・学芸員）

■欠席者

- ・百瀬 響
- ・伊井義人
- ・金田 稔
- ・石黒嗣康

■傍聴者

4名

1. 委員長あいさつ
2. 素案の決定について
3. 今後の取り組み予定について
4. その他

石 井：本日は大変お寒い日が続いている中お集まりいただき、ありがとうございます。これより石狩小学校校舎利活用検討委員会第 5 回会議を始めたいと思います。初めに村山委員長より一言ご挨拶をいただきます。

村 山：こんにちは。久しぶりのお天気です。昨日までは本当に風と雪で車の運転も除雪も苦勞する 2 週間でしたので、こうしたお天気の中会合ができてよかったと思います。私事で、以前にもお話しましたが、先日石狩市民カレッジというのがありまして、10 周年を迎えるのですが、その関係で特別講演というか、記念講演をしました。テーマが石狩小学校です。なんとといっても石狩小学校は明治 4 年の私塾から始まり、明治 6 年の公立教育所として札幌や胆振、後志、日高を含める中で非常に先進的な学校でした。そして当時としては非常に優秀な先生方が集まったという画期的な学校でした。円形校舎に関して言いますと北海道で最初に作られた学校であり、さらに現在でも使われているという、すばらしい学校に関わる会合を持つことができ非常に良かったと思います。もう一つ、南線小学校というのがありまして、これも先日 3 年生を対象に 2 時間体育館で郷土の歴史を授業してまいりました。やはり子供たちは地域のことに非常に興味をもっています。しかし不足していると思うのは石狩に子供たちが学ぶ博物館的な場が砂丘の風資料館しかないというものです。開拓からの 150 年の歴史を学ぶには展示資料不足だなと感じてまいりました。石狩小学校の活用という形で前回事務局の方から、やや理想とするといえますか、提案がなされ、円形校舎、そして増築校舎の提案がなされました。非常にいい方向に提案されていますがまだまだ皆さんの中にはご意見もあろうかと思しますので、今日しっかりそれを出し合ってください。次回はパブリックコメントですから、今日はそれに向けて方向決まるところになればいいと思っておりますので、よろしく願います。

石 井：ありがとうございます。本日ですが、伊井委員とか金田委員、石黒委員からは欠席の連絡をいただいております。百瀬副委員長ですが、急用ができたということでもしかしたら間に合わないかもしれないということで、今回きていただいている 6 名の皆様で行っていただきたいと思います。10 名の委員のうち、6 名が出席されますので、会そのものは成立するというのでよろしく願います。ここからは議事進行を村山委員長にお願いしたいと思っております。よろしく願います。

村 山：それでは、会議の日程順に進めて行きたいとおもいます。まず、事務局からの説明

があると思いますが、よろしくお願いします。

石 井：はい。前回の利活用の素案につきまして、委員の皆様にご一度持ち帰っていただき、質問意見等があれば事務局にいただいくださいようお願いしていましたが、その中で1件、池上委員からご意見をいただきました。資料2ページをご覧ください。そちらにいただいたメールの本文そのままですが、掲載させていただきますので、それと別添資料として紹介いただきました事例の一部をお示ししましたので、ご覧いただければと思います。

村 山：課題といいますか、ご意見があれば事務局の方へという中で池上委員から1件提出されたということですが、池上委員何か補足説明はありますか。

池 上：はい。前回の委員会時には口頭でしか話をしていなかったもので、実際にビジュアルに見ていただくほうが伝わるのではないかとということで、メールに書いてありますが、本来はこの内容が会議前に転送いただいて検討いただくのが理想だったのですが、時間的に間に合わなかったということで、今日この場での説明になります。私が提案したのは勘違いされていたのですが、小学校すべてを宿泊施設にというわけではなく、一部を宿泊施設にして、多様性を持たせようというもので、その成功事例がメールにURLとして6個載っていますが、今回紹介するのは1番上の1日1組限定で受け入れて大成功しているという学校の例になります。それ以外は大部屋に布団を敷いて寝るとか、転用事例になります。この資料はどのような形で印刷していますか。

石 井：ホームページを全て印刷したものと、施設の写真全てを印刷しました。

池 上：では、1ページ目から4ページ目までは縦にずっと続いているという理解でいいですね。

石 井：そうです。

池 上：わかりました。こういう小学校が、もう廃校になっている小学校ですが、宿泊施設として転用しているという例になります。都心から90分ほどのところにあり、石狩小学校は札幌の中心から大体40分くらいですか、半分位で距離的にも丁度いいということで、ただ人数はこれを見ると20名からのご利用などとあって、かなりの面積をさいている感じですね。ただ、他のまとめサイトを見ると、半年先まで埋まっているような人気の施設になります。後ろの方の写真をご覧いただきますと、教室をそのまま転用しているため黒板がそのままあるとか、教室の上にそのまま畳をしいているとか、それから教室のお道具入れのところですか、そういう場所に物をいれてダイレクトにベットを入れているとか、あとはお風呂がシャワーとか、ここは体育館やグラウンドが利用できる形になっていて、さらにカフェが利用できる形になっています。人口規模でいうと、都心部と札幌とで2倍位かわってくるので、例えば2段ベットとかで教室1つ分くらいを転用するというのが良いのではないかなと。あと今すぐこういう形にするというのではなくて、今こうして意

見を挙げていくことによって将来展示がどうも集客が良くない、何か起爆剤が欲しいとなった時に、展示室を一つあけて、こうした宿泊施設やカフェを入れるというのがいいのではないかと。個人的には最初にこういうものを入れていただけるとありがたいですが、1つは円形校舎で泊まれるというのが全国区でうたい文句になり、着目があがると、それなりに検討すると全国から視察などか来るとということで、石狩から情報発信ができるというのはあるので、そこは番屋の宿問題とか色々ナイーブなところがあるかと思うのですが、起爆剤の一つになるということと、ここにぐっと知恵を傾けるということでこういう案もありなのではないかと提案させていただきました。以上です。

村 山:ありがとうございます。前回円形校舎、体育館も含め展示スペース、研修スペース、収納、調査スペースとこのような形で提案されていましたが、今回池上委員から提出された宿泊施設というのが、宿泊することによって滞在型といいますか、そういった形で体験する形もあるのではないかとということで千葉県の例を紹介していただきました。これに関して事務局はこのご意見を含めて提案ということでもいいですか、それとも皆さんの意見を聞くということでしょうか。

工 藤:事務局としては、全体の進め方としてはどのような活用をするのかというプランについては皆さんのなかでご検討いただけるというように考えております。その前に池上委員からご提案があつて、説明されたわけなんです、その部分について事務局の考え方を説明する機会を作っていただければと思っております。

村 山:それでは、今の池上さんのお考えを含め事務局の今後のお考えをご提案いただくということでよろしいでしょうか。よろしく申し上げます。

工 藤:まず最初にこういう形で検討委員の皆様にご意見を伺っていただき、池上先生にもご提案をいただき感謝申し上げたいと思います。事務局の方向性としては、石狩小学校の校舎を活用という中で宿泊に使うということを全く否定するというのではなく、そういう使い方があるということは十分に理解したいと思います。そしてそういった使い方について理解して、検討してこちらの使い方について説明させていただきたいと思います。結論としては宿泊というのを石狩小学校の中に入れるというのは今の所難しいだろうと考えております。その理由ですが、一つの経緯として、この石狩小学校の活用というのは、石狩小学校と八幡小学校の統合がきっかけということで、統合の地域の説明会の中で、統合の説明会ではあるんですけども、その後の石狩小学校の空いたものをどうするんですかという質問があり、その上で教育委員会としては石狩小学校の校区、本町周辺の歴史について説明する、説明会では歴史館といった言葉も使っておりますが、そういうような使い方をいたしますということで、統合の説明会でも一貫して説明してきたということがあります。教育委員会としても現状、歴史館といいますか、歴史を伝える体制として考えた時にやはり色々足りない部分が多いという認識であります。色々な歴史資

料を残すというのは、博物館的な施設が中心となるわけなんです、その博物館的な施設の中で収集した資料の保管であるとか、そういったものを色々な形で見えていただく展示であるとか、研究であるとかそういうようなものを使った色々な講座、教室というものが現状では非常に不足しているという問題点があると認識しております。今回そういった部分を石狩小学校の活用の中でということで考えております。検討委員会の委員の皆様からも色々な部分で学校の歴史をしっかり残して欲しいですとか、今までできなかったことについて期待であるとか、そういうものをいただいているわけで、そういったものに応えるという意味で今やってみるとですね、円形校舎と増設した四角い校舎、そういったものを含め色々普段の中でお示ししていますが、それなりにしっかりと埋まっていくという形ですので、そこに宿泊を入れていくというのは取り合いとして難しいのかなという感じしております。円形校舎の中ではすべてを展示室なり事務室なりに使うというわけではなく、円形校舎の教室だったものを残す部屋も考えておりますので、全体としてはそういった展示であったり博物館的利用をするんですが、そのような学校の歴史といった考えでもおりますので、なかなかそういった部分までは難しかろうと。また実際に運営について考えた際に、市の方で、教育委員会といったところで宿泊施設ということになりますと、博物館としてはこれまで文化財課で博物館を担当してきて、スタッフもおりますし、ノウハウもあるという所ですが、宿泊となってくると大分性格が変わってくるのかなというところで、これはこれでかなりむずかしかろうと思っております。そういったことを検討して考えたところ、なかなかご提案ではあるのですが、宿泊の部分を入れるのは現状では難しいと事務局では考えております。

村 山：廃校されたといいますか、空いた学校の活用というのは色々な形があるのですが、今回は工藤さんがおっしゃったように展示関係、いわゆる前回の提案のような形で進みたいという話と、せっかくの池上委員の提案ではありますが、これを理解しながらも、前回の提案のような形で行きたいということだったかと思いますが、これに対して何かお考えありますか。

石 山：前回の会議のときに、小学校の活用プランのコンセプトという話をさせてもらったんですが、今回の会議に任命されたときに、石狩小学校が廃校になった時に関する検討委員会なので、例えば宿泊施設であったり、本町地区全体での起爆剤としての学校の活用プランを検討するのかなと思っていたのですが、最終的には石狩小学校を歴史館として活用する際の検討ということでコンセプトとしては、あくまで歴史館であるということはず変わらず、それをいかに検討するかということで決まっているということなんですよ。

佐々木：第1回で教育長からのご挨拶の中にもあったと思うのですが、石狩の歴史文化を後世に伝えるための施設としてのあり方をお考えいただきたいということで当方

ではお願いをしているつもりであります。

村 山：そういった歴史的な資料を保管、展示する場というのが基本にあったということで、先ほどの工藤さんからのご提案ということでよろしいですか。そういう方向を踏まえて次の提案をお願いします。

工 藤：今日の検討委員会というのは、次のパブリックコメントに向けて原案というのを固めていただくということなので、事務局側のプランは前回ご説明しており、これがベースになるということで、活用プランということで平面図をつけたり色々しましたが、これが実際に進んでいくと、そのままそういう形になっていくかというのはなかなか改修の費用の問題であったり、だんだん詰めていく中でこちらでお示ししているプランが変わらざるを得ないということがあるかもしれませんが、石狩市民の皆さんにこういったこととお示しし、ご意見をいただくということになりますので、この検討委員会で皆さんにご確認いただきたいと思えます。

村 山：今のご説明でよろしいですか。

池 上：今回僕が入れてもらったのは、最初僕提案しているんです。ただ議事録ができていなかったの、ここの検討事項としてこういうのが出たというのが市民が見れない状態だったんですね。こうして今回こういう形で出て、議事録にもものって、公聴の皆さんもいらっしゃって記録も残る、というこういう検討をしたという記録のこすということなのでこうして入れていますので、今石山さんがおっしゃったように起爆剤の何かが必要ではないかというのが議事録にも残って、パブリックコメントとして市民の皆さんの前に出たときに、こういう検討があったという事実を示すということが大事なんですね。言い方が悪いのですが、市側が作った歴史館というルールに既定路線でのっていったわけではない、ちゃんと色々な意見があって検討してきて、みなさんどうですかというためにこういうことをやったということですので、そこをうまく進めていただかないと、既定路線にのっただけというのは市民の皆さんにとってもいい印象は残さないと思えます。

村 山：今の話とお手元にある前回の議事録の中で多様な意見が出され、事務局からも色々な意見が出され、こうして方向に進んで、こういう意見になったんだということだと思いますので、いまの池上委員の話は私もよく理解できますし、そういう気持ちで我々も会議に参加しているということでもよろしいですね。それでは次に事務局をお願いします。

佐々木：その前に、パブリックコメントにだす案の中に、池上委員のご意見の宿泊というのを入れるのが難しいということでご同意いただけるのであれば、前回私どものほうで提案させていただいた素案がありますが、これをパブリックコメントの原案にしてよろしいかという確認をお願いいたします。

村 山：パブリックコメントで、前回の提案と今の提案と、色々な提案があつて生まれたんだということを示してよろしいかということですね。

佐々木：そうですね。もう少し具体的に言うと、原案としては前回ご提示した活用プランでありますけれども、そこに至る過程として補足説明のようなものを入れて、例えば宿泊プランといったものがありましたとか、本町地区の方々が利用できるようなという意見もありましたと、それらについてはこういう形で生かしていけるものもあるし、難しいものもありますというようなことをくわえてパブリックコメントにしますということで、我々としては考えているのですが、そういった形でよろしいかということです。

村 山：今ありましたように、ただ単に建物の活用だけでなく、それに付随する色々な意見があっただけでこうなったんだということをパブリックコメントにいれるということですが、これはよろしいですね。

鈴 木：今皆さんから出てきたんですけれども、この案だけですと、案が出てきた道のりが見えないので、補足といいましたが、その議論してきたことが大事なので、そこは入れていただきたいですし、そこをきちんと残していただきたいです。もう一つパブリックコメントがもう固定的というか、その路線みたいなので余地がないというのではなく、何か過程において変わりうる、また何年かおいて変わりうるというそういうようなことも含めて記載していただいて、これで出来上がって、博物館として特化するというのではなく、そういう余地が残されている、そこに残されているというのが色々な意見が反映されている、実際に進めていくと色々な問題があると思うんですが、そういうものを残しておくというのが非常に大事ではないかと感じております。

村 山：原案の提案だけでなく、色々な過程をきちんと書くと。

鈴 木：それから固まったものではなくこういった何かまだ変わりうる可能性があるというようにそういうものであるという、基本的にはこれでいいのですが。

村 山：パブリックコメントに提案した場合に、新たな意見が出たときに対応できるということも含めてですね提案していただきたいということでよろしくお願いします。

越 田：池上委員からこうして提案があったということで、私から個人的な、委員としての意見を述べさせていただきたいと思います。実は1月の最初の2日間に深川市の学校跡に泊ってきました。目的は縄文ステイという朝入って次の昼まで2日間縄文づけになろうという企画に参加したのです。入ってまずは石器を作って、冬のさけを切って石狩鍋を作りました。体育館がメイン会場でしたが、調理室があったのでそこで調理しました。午後は勾玉を作り、食堂で夜と翌日の朝食を食べ、昼の残った石狩鍋も食べました。翌日の午前中は縄文ファッションということで服を作り、前日の勾玉とあわせてファッションショーをして終わりました。そういう宿泊のできる施設で、きちんと食堂にシェフの方もいて、合宿にも使える、夏の間はバスケットボールの合宿にもよく使われている施設です。今回の博物館とはちょっと合わないかも知れませんが、もしまた別に廃校ができたときに宿泊施設がで

きたら面白いと思って帰ってきました。ここは教室自体が狭いですし、ここに博物館の展示施設を作ってしまうと、宿泊自体は無理なのかなと。今回は砂丘の風資料館の近くでもありますし、展示に絞って、また廃校問題が出てきたときに宿泊も考えてみてはいかがでしょうか。円形校舎に泊まれるという池上先生の案はすごく素敵ですが、ちょっと分けないと難しいのかなと。今年 1 月に泊まったときの感想でした。

村 山：池上委員の意見に合わせるような、体験されたものをお話いただきました。石狩市としてもまだまだ博物館的な要素は不足しているし、今の体験型の施設も当然ないわけでありますから、近い将来廃校の学校というか、空き校舎になる学校もありますが、そういう所も含めて後ほど、いつかまた石狩としてのそういう活動ができる方向に進めるような機会があればいいと思っています。

佐々木：今のお話ですが、石狩小学校と同じタイミングで市内では聚富、望来は一年早いですが、厚田小学校と廃校が同時に 3 つできます。石狩としてはこの 3 つについては活用の方向性まだ決まっていませんので、民間事業者などの意見も聞いて 1 番良い活用の仕方を検討している最中です。その中で、今言っていただいたような宿泊施設などの希望が出てくれば、それは十分検討に値すると考えております。ただ残念ながら、石狩市が運営するというノウハウは、昔の失敗もありますけれども、ないという部分は否定できませんので、市が直接何かそういうことをやるというのはなかなか難しいのかなとは思いますが、ただ、学校をそういったことに使うというのは前向きに考えて行きたいとは思っております。

村 山：はい。将来的には前向きな考えもお持ちだということで受け止めておきたいと思えます。パブリックコメントについてはこの素案そのものではなく、これを一つのイメージとしてということですよ。

石 井：はい、図面、部屋割り等はイメージしやすくする参考図で、図面と、こういった活用を考えているかという部分をつめて、詳細をお出しする形で考えております。

村 山：展示の内容や教室の使い方というのは 1 つの案であって、こういうイメージで持って行きたいということですが、皆さんこれについてご意見はありますか。

鈴 木：もちろん意見出てくるかと思いますが、資料についての理由付けといいますか、そういうものは文書なりでセットでくるということですか。

工 藤：そうです。

村 山：そのほか何かありますか。

池 上：プランに詳細につめて割り当てていくと、既定路線になってしまいます。プランに展示の第何室が何というのを当てはめるのはしないほうがよく、コンテンツを詳細に説明して、今まで検討してきた事項をパブリックコメントに出して、これから部屋をどう使っていくかを検討するけれども、まだ市民の皆さんの意見を聞いて変える余地がありますよと、つまりプランに細かく入れれば入れるほどもうひっ

くり返せないと市民はあきらめてしまいます。そのため、今おっしゃった展示内容まで第何室が何というのまでつめるのは逆効果です。コンテンツをもっと細かく出すのは大事だと思います、そしてバッファーとして市民からの意見を入れるというのを出す必要があります。ただそれを事細かに平面図に出すというのはむしろしないで欲しいというのが希望です。

村 山：あたかも決定したかのような提案でなく、市民の声が少し受けいられるような提案の仕方がいいのではないかということだと思いますが、他にありませんか。パブリックコメントには素案と、第 4 回で出たような名称や、石狩のこの一旦の活用イメージといったところまで提案するのでしょうか。

佐々木：そこらへんについては出さないと一般の方にはなかなか理解してもらえないかなと思います。石狩小学校の建物だけではなく、砂丘の風資料館も変わっていきます、なぜならこうだからという部分は出すべきだろうと思います。ただ、今池上委員がおっしゃったように平面図をばちんと出さない方がいいという委員会のご意見であれば、その形で、文章の形でパブリックコメントを出すようにしたいと思います。そのあたりについてはご議論いただければと思います。

村 山：平面図はださなくても、こういう展示にしたいというのは出すんですね。

鈴木：個別なところが入ってなくても、展示室の 1、2、3 とかですよ。平面図はないと想像しにくいですよ、個別の部屋をどう使うかというのはなくとも。

村 山：ここにあるように本町地区全体の地図と、イメージを含めた全体を見つめて円形校舎はどんな役割になるのかがわかるような出し方が必要かなと思います。

石 山：各部屋に割り振られている展示内容は、出したときにもっとあったのを部屋にあわせて少なくしたのか、部屋数によって展示のテーマが決まったんですか。

工 藤：こちらの展示内容については、事務局の方で腹案というのはあったんですが、委員の皆様から色々意見をいただいた中で、こういうテーマの展示はどうかとご意見をいただいて、それを取り込むような形で、ただ部屋数が決まっているので、その中で必要なものを割り振ったといいますか、この部屋割りもがちがちに決まっているわけではなく、ただある程度こう中に入ってこないと理解しにくいということがあったので、仮にこういう形でお示ししています。部屋数をみて増やした、減らしたということはないです。できるだけ活用する中で過不足内容に配分したつもりです。

加 藤：夕張の石炭の博物館をやらせていただいたときには当然もう建造された建物をどうするかというのがテーマだったものですから、ある程度新規でゼロから組み立てるのではなく、あるものは存在しますので、その中でもう少し抽象的に例えば今第 1 室が石狩小記念室になっていますが、石狩小記念室スペースとかそう言葉をやわらかくしてやった事例もあります。部屋という概念よりはスペースと表現をやわらかくして、ただ図面というのは現在石狩小学校が存在していますので、市民

の方々が利活用をどうするかといったときには図面があったほうがわかりやすいと思いますし、また意見もいろいろ出てくるんじゃないかと考えます。

村 山：他にありますか。では、大体方向ができたと思います。

佐々木：今図面をまったく出さないほうがいいのか、図面は出しながらもこの部屋はこうとばちんと決めずにだすという形と 2 つあったかと思いますが、どちらがよろしいでしょうか。事務局としてはどちらでも対応できると思います。この委員会としてどちらの方向でパブリックコメントを出していくかというところをご判断いただければと思います。

村 山：図面は出すのではないですか。

池 上：図面は出さなければいけないと思います。僕の個人的な考えでいうと、平面図は旧名称が入っていると思います、職員室とかトイレとか。教室に便宜的に番号を振って、面積を書いて、真ん中もホールとか書いてありますが、これがこう活用できるとか、教室が展示室に転用できるとか、元の小学校のここが、展示室に活用されるとかが文章での回答になると思います。そうすると、市民の方々も想像力が働くと。ばちっとはめてしまうと動かしようがなくなると。

村 山：いわゆる現小学校の使用状況を教室とか書いておいて、ここが展示場になるということで、展示内容はこちらに書かれているので、こういうのがこうなるんだというのが市民にわかれば、具体的に今からはめこまなくてもいいということですね。

池 上：それに面積が書いてあるとより良いです。

村 山：それは可能ですね。全く図面がないとなるとまた困りますので。そのほかありますか。

越 田：今の池上先生のご意見ですと、この校舎の 1 階 2 階の情報は出しておいて、右側にある第 1 室から第 10 室までの内容をその中にはめこむものとして提案するということですか。

池 上：教室を展示室として転用すると書くと、それを読んだ市民の方が、ああここはこういうのが入るんだというイメージが流動しやすくなるよ。

越 田：あと石狩小学校の部屋、とか学校を残す部屋というのを書くと、こういったものがこの部分に入って、今は円形校舎ですが増築校舎のそれぞれにこういったものが入るよというのを図面を示しながらという説明をするということですね。

池 上：そうです。体験学習室という風に書くとイメージがわからないけれども、理科室兼家庭科室であり、水回りもあって火も使えるので、こういう用途に使えるとそういう文章にすると想像が楽ということですよ。

越 田：元の小学校の用途からひっぱりだせるような。

池 上：そうですね、そうしたら多分パブリックコメントを出したのを市民が見たときにもっと違う用途に入れられるんじゃないかとか、せつかくこういうのがあるんだからもっと違う用途に使えるんじゃないかという意見が出てくる可能性があるとい

うことです。

村 山：今右の方に書かれているこういう展示がしたいという項目ですが、これは今まで砂丘の風資料館では得られない項目だと思いますし、先ほど私が小学校で授業をしてきたといいましたが、それに合うような、子供たちがここに来ることによって学べるような題材がありますので、これは 1 つの例としてかかけてもらって、それがどこの教室に当てはまるというのはあとで良いわけですので、先ほどの平面図の表し方は具体的に書かない形で行けばいいかなと思います。このパブリックコメントというのは、希望者がくる形で行うのですか。

佐々木：市がやっているパブリックコメントと同じような形で、ホームページですとか、あいボードのようなところで原案をお示しして、ご覧いただいた方で意見があれば自由に出していただきます。もう一つは期間中に案内を出して説明会を行い、そこで集まっていたいただいた方々には口頭で原案の意図ですとか、ご説明をして、そこでもまたご意見をいただくことができればそれもパブリックコメントの意見として検討していくと、一般的なパブリックコメントと、説明会での意見交換と、その二通りを考えております。

村 山：説明会の方は、日にちが設定されて、ですね。

佐々木：はい、日付はまだ決定しておりませんが。

村 山：二つの方法で進行するそうです。

佐々木：出し方としては先ほどご意見が出ていたように、平面図は現在の建物用途の図面を出し、それらの中に入れ込んでいく機能の要素を並べていくという形でまとめていけばよろしいですか。

村 山：それでよろしいと思います。

佐々木：それにくわえて、こうなった議論の経緯がわかるものを付け加えるということですね。

村 山：そうですね。こういう形で話し合いましたが、パブリックコメントに向かう体制はこれでよろしいですか。

佐々木：一つ付け加えたいのですが、今石狩小学校の劣化度調査をやっています。建物の設備がどれくらい痛んでいるか、それを直すのにどれくらい費用がかかるのかということ調査しております、その結果がでてからパブリックコメントを出したいと思います。というのも例えばこの部分がぼろぼろで使えませんか、使うために莫大な費用がかかりますとなった際には、利用計画が影響を受けるということがないわけではないので、その見極めをした上でパブリックコメントとしたいと思っています。そこで万が一恐れているような事態が起こったときには利用計画そのものをいじらなければならないとなりますので、パブリックコメントの前にまた集まっていたかなければいけないかもしれませんので、そのことはお含みおきいただきたいと思います。劣化度調査そのものは 2 月一杯で出てくる

予定ですので、順調に行けば3月中にはパブリックコメントを始められるのかなとは思いますが、そのあたりのスケジュール的なものは別途各委員にお知らせしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

村山：検査の結果が正常であることを願うばかりです。他にありますか。

池上：パブリックコメントの文章が、ドラフトではなくある程度固まったものができた段階で市民に出す前に委員に一度出していただくよう検討していただけないでしょうか。

佐々木：はい、パブリックコメントを出す前に、各委員に内容をご確認いただくというようにいたします。

村山：よろしくをお願いします。それではこれで大体よいでしょうか。それでは工藤さん。

工藤：はい、それでは検討委員会でこの方向でということをご確認いただいたということで、この後は実際にパブリックコメントの資料については事務局と委員長の方で整理をさせていただくということでご理解をいただきたいと思います。

村山：それでは、今日はこれで良いということでしょうか。事務局をお願いします。

石井：それでは今後の予定についてまとめさせていただきます。今回はパブリックコメントに出す原案の決定ということでご意見いただきましたので、いただいたご意見と現在進行中の劣化度調査の結果を踏まえ、パブリックコメントについて村山委員長も含め、補足のコメント、付属説明を加えたものを検討いたしまして、パブリックコメントの原案を作成したいと思います。そして作成した段階で委員の皆様にはこういった形でパブリックコメントを出しますとお示ししたいと思います。先ほど言ったように劣化度調査の結果で、例えば劣化が進んでいて大規模な修繕が必要でお金がかかるですとか、そういうお話が出てきた場合については、もう一度活用案の検討をしなければいけないので、検討委員会を開くとその可能性がありますので、その場合はまた日程を調整させていただきまして、会議を行いたいと思います。なるべく全員が集まれる日程が組めればいいのですが、年度内になるべくなら決めさせていただきたいので、最低半分の方が集まれる、そういった日で全員の方にご参加いただけない場合もありますので、その場合ご了承いただければと思います。その場合についてはこういう形でやりますということで資料等については欠席された場合にもお渡ししたいと思います。そしてできた原案、劣化度調査が順調に言った場合にはパブリックコメント原案を皆様方にご提示しまして、個別で通知する形になるかもしれませんが、その原案を作成しまして、皆様のご意見を伺って、問題がないようであれば、そのままパブリックコメントをだすと、市が出すのではなく、石狩小学利活用校検討委員会としてこのように利活用したいという意見を出す形になります。そうしてパブリックコメントを出して、市民から意見を募集するのですが、その期間中に現地の説明会を開催しまして、市民の方が集まっていたいて意見を聞く、という形になると思います。現地説明会につい

ては利活用検討委員会が主催で行う形になりますので、日程が決まりましたら委員の皆様にもご連絡いたしますので、ご都合がつく方についてはぜひ出席いただいて、市民の方の反応等を確認していただければ大変ありがたいと考えております。次回の会議についてはパブリックコメントまで順調に言った場合、来年度になるのですが、パブリックコメントと現地説明会でいただいた意見をこちらで出しますので、その中で検討をいただきまして、結論がまとまりますと、最終的に利活用案が決定いたしまして、検討委員会から教育委員会の教育長に意見として提示していただく形になります。第 6 回で意見がまとまらない場合はもう一度委員会を開きまして、最終的な結論を出したいと考えております。今後については細かくメール等で連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

村 山：それでは今日はこれでおわります。

以上

議事録を確認しました

平成 31 年 2 月 21 日

石狩小学校校舎利活用検討委員会

委員長 村山 耀一